



発行：向東小学校
教頭：石原 政信

6月27日（土）は今年度2回目の土曜授業でした。今回の土曜授業のテーマは「地域を見つけて、自分のふるさとを再発見すること」でした。第1学年から第4学年までは、毎月お世話になっているあひる文庫さんに来て頂き、向東の地域に伝わる民話の読み聞かせをして頂きました。第5学年は、地域の歴史に詳しい方にフィールドワークをして頂き、現地で実際に子供達や参加して下さった保護者の方に向東に伝わる歴史を伝えて頂きました。そして、第6学年では、「自分のルーツである家族に「感謝」を伝えるための「ありがとうを伝える会」を開催しました。第3号では土曜授業での子供達の学びの様子をお伝えします。

歴史

を知ることは **自分** を知ること

第5学年の子供達は、天女浜神社や西金寺など、フィールドワークを通して、自らの育つ向東の歴史を学ぶ機会を設けることができました。

普段何気なく見ている場所にも、人々の営みがあり、思いがあること。その中で私たちは生まれ、育っていることを感じる事ができたのではないのでしょうか。自分の故郷を大切に思える人が、初めて、グローバル社会で他の地域にも人々の歴史や思いがあると考えられるようになるのではないのでしょうか。



6月27日（土）に歴史案内をして下さった地域の方々、ありがとうございます。この歴史案内で、天女浜神社あたりの塩田が尾道で、一、二を争う大きさだったこと、1650年（360年前）に塩田が始まり、1960年（約50年前）ごろに終わったということを知りました。歴史案内をして下さった地域の方々のおかげで知らなかったことが分かりました。ありがとうございます。



私は、この短い時間の中で、向東には、いっぱい伝説があるんだと思いました。いつもなにげなく歩いたり、遊んだり、通っていたりしているのに、塩田があったり和泉式部が来ていたり、色々有名なことがとても、よく分かりました。一番心に残っているのは、ある神社に和泉式部が来ていたことです。その神社の横の松を地元の方は、からさないように水をあげているということに感動しました。おかげで、向東の色々な伝説があることが分かり、探検は楽しかったです。



背景を知る

M・S 家庭・地域と協働し、社会で自立できる児童を育成します。

伝えていますか

6年生は、尾道青年会議所の方々をゲストティーチャーとしてお招きして、「ありがとうを伝える会」を開催しました。会の前半は、「感謝」を伝えることの意味と価値を実感させるようなプレゼンテーションにより、少

しずつ、子供達の思いを引き込まれていました。そして、後半、子供達は一人一人が思いをしたためて、「心のプレゼント」を作成していきました。

先日は、「ありがとうを伝えよう」の授業をしてくださり、ありがとうございました。わたしは、この「ありがとうを伝えよう」の授業を受けて、大切なことを学びました。それは、今まで育ててくれた家族に感謝の気持ちを伝えることです。人はいつなくなるか分からないから、ありがとうを伝えないといけないことを学びました。

私は、感謝の気持ち「ありがとう」はとても大切な言葉だなと話を聞いて学びました。私が思ったのは、ありがとうのメッセージをきちんと言葉でもっともって伝えて後悔がないようにしたいです。おうちの人に手紙を渡したとき、家族は涙目になっていました。とてもうれしかったです。これから、暑い季節になりますが、お身体に気をつけてください。本当にありがとうございました。

感謝



伝えなければ伝わらない

私は「ありがとうを伝えよう」という授業を受けて、「ありがとう」という言葉はすごく素敵な言葉だなと思いました。私は、授業で子供を無くしたお母さんが書いた詩を見たとき、「あのお母さんはこんなにも子供を愛していたんだ。」素晴らしい詩だなと感動しました。その後、手紙を書くとき、お母さんとお父さんに感謝しなければならぬことが一杯思い浮かんできました。迷った結果、2枚書きました。よろこんでくれるかと思ってお母さんとお父さんに渡すと2人ともすごくほめてくれました。お母さんは少し涙が出そうにもなっていました。すごくうれしかったです。手紙を書いて良かったなと思いました。この授業で私は、「ありがとう」という言葉はやっぱりすてきだし、良い言葉だなと思いました。ありがとうございました。

